

第3回人権労働・参加協働ワーキンググループ

議事録

日時：2018年3月27日（火）10:00～12:00

場所：虎ノ門ヒルズ9階 LONDON 会議室

出席者：黒田かをり座長、河合純一委員、河合弘樹委員、崎田裕子委員、関正雄委員、土井香苗委員、パトリシア バダー・ジョンストン委員、加藤いずみ委員、小林基樹オブザーバー代理（勝野美江オブザーバー代理）

※本議事録では、ワーキンググループを「WG」と記しています

- ・ 黒田座長：第3回目、本日で最後の人権労働・参加協働WGということで、2時間という長い時間になりますけれども、どうぞ皆様よろしく願いいたします。それでは、本日の議事等につきまして、事務局より説明をお願いします。
- ・ 事務局：資料の確認。資料2、3、4について説明。
- ・ 黒田座長：これまでの議論、前回の関係者ヒアリングを踏まえて事務局で整理しなおしていただきました。資料2、3、4について、何かご意見はございますでしょうか？
- ・ パトリシア委員：2番のゴール、United in partnership & equalityはいかがですか
- ・ 黒田座長：& equalityを追記するということですね。他のご意見いかがでしょうか。
- ・ 土井委員：人権労働分野で2点ございます。その前に質問をさせていただきます。この五輪は、結局ビジネスと人権に関する指導原則に則るのでしょうか？
- ・ 事務局：指導原則の理念に則ることを考えています。全体として則るかは、資料2の整理でもございましたが、組織委員会は、権限を有しない者とも連携する必要があります。その部分は働きかけになります。その部分も理念に則って適応していくのが望ましいかなと思っておりまして、土井先生のおっしゃる趣旨と同じという理解です。指導原則の理念に則って、さらに指導原則が対象としている直接的な契約関係にあるだけでなく、オリンピック・パラリンピック大会独特の直接関係ない者にもしっかりとアプローチ、働きかけを行い、大会全体として、人権に配慮することを考えています。
- ・ 土井委員：組織委員会は指導原則に則るのでしょうか？
- ・ 事務局：組織委員会の権限の有する範囲において、則っていくと考えます。
- ・ 土井委員：組織委員会は、権限を有するところは直接適用、組織外もできるかぎり努力すればよいというのが、指導原則なので。資料2で示されることを実施するなら、組織委員会として指導原則に則ることは、間違いないと思います。なので、そのように言うべきではないかと思います。理念に則るというだけでは、完全には則らないと理解されてしまうので、それは、改めた方がよいと思います。一方で事務局のご懸念は、オリンピック・パラリンピックというと色々な運営主体があるので、他の組織までもが、指導原則に則るということはできないということかと思えます。そのように組織委員会と

してお考えになるのは、当然かなと思います。主語がなく、オリンピックは理念に則るとしか言えないのはわかるのですが、組織委員会としては則るとするのが大切だと思う。私の理解では、運営計画はオリンピック・パラリンピック組織委員会としての計画ですよね。たとえば国がどうするかということまで盛り込むわけではないと理解しておりますので、組織委員会は指導原則に則る、と書くべきだと思います。3パラグラフのところで、「指導原則の理念を～」と記載されているところを、「指導原則に則って」と書き換えるべきだと思います。2点目は、1パラグラフのところに、「一朝一夕には解決できない問題」と記載されており、これは事実ですが、どうしても書かなければならないということであれば、記載しない方がよいと思います。

- ・ 黒田座長：今の点に関しまして、関連のご質問があればお願いします。
- ・ 河合委員：関連かどうかかわからないですが、人権労働、特に障がいのある方々の雇用について思っていることがあります。もちろん組織委員会の中でも障がいのある方々が働いていることは承知しているのですが、国際的な基準でどうなのかというのがありつつも、国内の基準も含めて、レガシーという言葉がよく使われる中で考えると、組織委員会が、2020年で終わってしまったときに、学んだこと、ノウハウがあっても残らないと思います。そう考えると、スポンサー企業がどうなのかということと、同時にNOC、NPC、具体的にはJOC、JPCというスポーツ競技団体の中の障がい者の雇用状況とか、そういったものも、もっと訴えていくべきじゃないかなと思っていて。そうしないと結果として、残らないというような気がしているので、そのところを、もう少し積極的に運営計画で言及してほしいというのが希望としてあります。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。関委員お願いいたします。
- ・ 関委員：土井さんのご意見には同感で、そうだなと思います。私が原案のなかで違和感がある部分は、「発展的に適用する」という表現です。指導原則の適用は管理することができるまでで、それを越えた部分は発展的かということ、そんなことはないと思います。ですので、「発展的」という言葉が引っかかりました。とり去った方がよく、そもそも自然体で適用されるものだと思います。もうひとつ、基本理念が抜けていると思います。大会に関わる人すべての人の人権を尊重する、ということが大事であり、大会自体が人権を尊重するという考え方に立っている、ということを経験として書くことが必要ではないかと思います。以上2点です。
- ・ 黒田座長：ありがとうございました。これまでの点につきまして、事務局でご回答をお願いします。
- ・ 事務局：まず、運営計画の位置づけですが、お配りしている資料5の2ページ目の運営計画の2つ目の点です。組織委員会や、デリバリーパートナーという大会を支援する組織全般、先ほど出ておりましたJOCを含めたところがすべて入ってくるのですが、この組織委員会、デリバリーパートナー、大会関係者が持続可能性に配慮した大会の計画運営を行うための方針、目標、施策を目指すことというのがございまして、組織委員会だ

けでなく、策定主体のクレジットは組織委員会ですが、計画に記載する対策も含めたところは、実は組織委員会以外の施策も入っています。そのような意味では、先ほど土井先生のおっしゃった2段書きはそれでもよいと思いました。また、関先生のご発言ですが、すべての人権を尊重するというところで、実は、資料3は、大目標の説明を簡単にしたものでして、本体の資料5にそれぞれの施策を記載しております。例えば、資料5の13ページ目から人権労働・公正な事業慣行に関するところで、先ほどの資料3にあたる場所は、13ページ目の一番最後のところに入っているのですが、めくっていただいて、14ページ目に、全体として、尚書きの下のところですが、大会が全体として人権を尊重したものとなるように行うということを書きつつ、14ページ目にも、各施策の目標、大会に関わるすべての人の人権を尊重した取組の実践というかたちで、目標に落とし込んでいる部分もあります。資料3の要素に、ご指摘の部分を入れさせていただこうと思うのですが、計画書の本体には目標も含めておとしこんでいます。また、「発展的に」という表現について、私も悩みました。指導原則は確かに、管理し得ない場所も対象にはしていると思うのですが、よくよく読むと、国、企業をターゲットとしていて、組織委員会のように、まったく異なる者が集まるのはレアケースだと思っています。そのようなレアケースについても、適用するというので、そこを発展的と表現しました。指導原則自体が影響を及ぼす範囲を対象としておりますので、この部分はこのままでもよいのかなと思いつつ。記述した意図は、オリンピック・パラリンピック大会が通常のとりひきを超えた関係者が集まるので、こういう表現にしました。

- ・ 黒田座長：河合委員の他の組織への働きかけについては、いかがでしょうか。
- ・ 事務局：失礼いたしました。資料5の15ページ、2-4-2、1)、bのところですね。ご指摘のとおり、組織委員会は時限組織でして、2020年の大会が終わりましたら、解散いたしますが、しっかりと障がい者雇用を促進し、そのような取組について、パートナー企業とも意識の共有をはかり、調達コードも推進している。ですので、大会後もレガシーとして引き続き、後戻りしないように促進し、世界に向けても発信していきたいと考えている。河合委員の思いと私たちの思いと一致していると考えている。
- ・ 河合：企業はもちろんなのですが、JOC、JPCに対しても、オリンピック・パラリンピックを一緒にやっていくなかで、JOCにも障がい者が働いていて当然よいと思っていますので、そういうところも含めて変わっていくといいな思いがあって発言しました。
- ・ 黒田座長：ありがとうございました。パトリア委員のご提案でしたけれども、「パートナーシップによる大会づくり」という日本語をかえずに、英語を追加するというご提案もございましたので、事務局にて、ご検討ください。
- ・ 事務局：関委員からいただきました、全ての人権を尊重するという考えかたは、資料3、「このため」のあとに、全ての人権を尊重するという考え方のもと、また、ダイバーシティ&インクルージョンの確保、公正な事業慣行を目指すという、冒頭に入れさせていただくことで対応させていただきます。

- ・ 関委員：それはそれで結構です。あと、公正な事業慣行が、「このため～」とつながらないと思います。公正な事業慣行は、別項目として入れるべき項目であって、人権分野に入っているものではないと思います。これを挙げなくてはいけないというのは、わかりますが、外出しにして、2つありますという書き方にした方がわかりやすいと思いました。
- ・ 事務局：そうしましたら、人権の関係でダイバーシティ&インクルージョンが3段落目に最初に入っていて、4段落目のオリンピック憲章のもとに、ビジネスと人権に関する指導原則を前の方にもって行って、ダイバーシティをその下にもっていきつつ、最後に不買行為と並列するかたちで外だしにするというかたちで修正をさせていただければと思います。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。他の点について、何かございますか。
- ・ 崎田委員：資料4の参加協働についてです。参加協働は、人権労働分野と同じ思想で動いていますけれども、参加協働の資料4の方向性の文章をみると、ボランティア、観客と一緒につくっていくというニュアンスだけが出ていますね。実際の本文には、社会全体の盛り上げが非常に大事と強くいっているので、そのような視点を少し込めた文言を方向性の文章にも追記した方がよいと思います。それこそが、レガシーとして社会に残っていくもののひとつとして強調できると思います。例えば、一番最初の行ですが、大会関係者の努力という単語に少しひっかかりを感じます。大会関係者の方がまず、一生懸命やるのが大事なことなのですが、大会関係者の取組だけでなく、広く社会や、ボランティア、観客、ここにもっと広く、もしこれが国の計画や報告書なら、広く国民と書くところだと思うのですが、社会全体でこれは取り組むものなんだと、うたった方がよいのではないかという印象がありました。例えば、この文章の最後のあたりに、社会全体で、多様な主体が連携して、社会の中でみんなが参画する形が、持続可能な社会のレガシーの大事な取組であるとか、取組にするというふうにするのはどうでしょうか。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。
- ・ 事務局：いただきました、最初のところですが、大会関係者の取組だけでなく、広く社会、ボランティアや観客などの参加・協力が必要であることからつなげさせていただき修正させていただきます。
- ・ 黒田座長：参加協働分野にも、ダイバーシティ&インクルージョンを入れた方がよいのではないかと思います。ここを少し、修正していただければと思います。他にはいかがでしょうか。よろしければ、今いただいた貴重なご意見をもとに修正、整理を事務局でしていただくということでもよろしいでしょうか。では、次は資料5。運営計画案ということですが、人権労働・参加協働部分の抜粋について、ご議論いただきたいと思います。分量が多いので、3つのパートに分けて質疑を行います。事務局から説明をお願いします。

- ・ 事務局：前書きから1章の部分まで資料5の説明。
- ・ SDGs についてですが、先週の持続可能性ディスカッショングループでも議論がございました。委員からマトリックスで整理するのはいかがなものかというご意見をいただきました。この部分は、会議当日でもお話しさせていただいたのですが、全体的にいわんとしているところは、薄い色の部分、全体的に関係のないところはない、SDGs の目標に対して、何らかの関わりあいがすべての項目にあるということ。また、関わりの強いものがどういったものか、という紹介です。ディスカッショングループでのご指摘のとおり、マトリックスにすると、ひとつひとつが大中小でという議論になってしまいますので、リライトの中でまたご相談させていただきますが、主要テーマごとに関係性の強い部分を記述するかたちで整理させていただければどうかと思っております。今日は、濃い色の部分に関して、ご意見あればいただきたいと思えます。
- ・ 黒田座長：これまでのところで、ご意見、ご質問をお願いいたします。
- ・ 土井委員：黒田さんのご意見を伺いたいと思ったのですが、いかがでしょうか。
- ・ 黒田座長：こちらは、皆様にご議論いただいた後に、DG でもご議論いただくとお思います。ひとつだけ申し上げたいのが、SDGs というよりは、SDGs が格納されている文書は、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（以下 2030 アジェンダ）」です。その前文や宣言などには、SDGs 達成に向けた理念や哲学がしっかり書き込まれています。「だれ一人とり残さない」というものが、大きなテーマとして掲げられており、17 の目標と 169 のターゲットは、すべての人の人権、ジェンダー平等、女性と女の子のエンパワーメントを達成することを目指すと書かれています。目標とターゲットだけを取り出して議論するより、底辺にある理念の部分を書き込む必要があるのではないかと個人としては思います。
- ・ パトリシア委員：ラーニングレガシーの話、とてもよいことだと思いました。SDGs の関係で、地球が人間と同じように、パートナーシップが必要だと思えます。そのような考え方が、FA のすべてのトレーニングに対して、具体的なテーマ、ノープラスチック、ノーウェスト、ノーエミッションという言葉が全体的にコミットすることができるとよいと思えますので。どこにいれるべきかは、わかりませんが、日本で 3R という言葉をよく使っていますが、今回はラーニングレガシーですから、これからどういう社会をつくりたいか、若者、ボランティアの方々に、サプライマネジメント、全体的にプッシュすればよいのではないかと思います。SDGs 関係だけでなく、地球が人間と同じように、地球はパートナーだという考え方を進めるチャンスだと思えます。どこにいれればいいか、わからないのですが、必ず、インクルードプラネットという表現が入ったらどうかと思えます。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。2030 アジェンダを 2030 アジェンダとして捉えるとすると、そこに5つの要素があり、全部Pであらわされていますが、その中にプラネットが入っています。People, Prosperity, Planet, Peace, Partnership というのが入

っているので、もし触れるのであれば、もう少し根っこの部分をここに書き込んで、どの目標にどれだけ関わっているかは、ここにはそんなに書き込まなくてもよいのかなと思います。

- ・ パトリシア委員：KPIに関して、会議でペットボトルではなく、グラス使っているのがとてもよいと思います。簡単なのですが、他のFAもこういう考え方をもっていれば、大きいインパクトがあると思います。
- ・ 黒田委員：関委員お願いいたします。
- ・ 関委員：黒田先生のおっしゃるとおり、マトリックスにすると、個々の紐づけがメインになり、根本がおざなりになってしまう。またもしもこのマトリックスを残すなら、濃淡の付け方も見直した方がよいと思います。例えば人権労働に関して、貧困は薄い色になっているが、ここは濃い色にすべきです。
- ・ 土井委員：関先生の発言への付け加えなのですが。もし、このマトリックスが残るなら、貧困、飢餓、差別も、もう少し濃い色なのではないかと。水へのアクセスも人権と言われていることを考えると、もっと濃い色でよいのではないかと思います。
- ・ 黒田座長：他の委員方どうでしょうか。今までのところで事務局からコメントがあれば。
- ・ 事務局：SDGsについては、東京大会で強く打ち出していきたいと考えています。組織委員会として打ち出していきたい。黒田座長のおっしゃるように、SDGsの根底の理念伝えていくこと、大事だと考えています。計画にSDGsを盛り込むとともに、SDGsの伝えようとすることを説明することも重要だと考えています。マトリックスについて、他の関係者からも意見をいただいておりますが、濃淡をつけることは難しいと感じています。全ての目標に関わっているのですが、どこがどの目標に関わっているかをある程度見せる必要はあると考えてる。IOCでもSDGsの目標との関連性を示している。IOCからもそのようにしてはどうかと助言を得ている。
- ・ 黒田座長：マトリックスを、どうあらかずかは、また整理していただきたいのですが、また、デンマーク人権研究所では、17の目標に対して169のターゲットがあるわけですが、その169ターゲットのうち、156が人権または労働者の権利に関わっているというデータもあります。もし何かをつくるのであれば、ベースになるものをいくつか、実際行われている調査などを参考にされるとよいのかなと思います。他にご意見はいかがでしょうか。
- ・ 崎田委員：新しいことではないのですが、事務局から組織委員会としてSDGsを重視して取り組んでいくというお話があったのは、大変重要なことだと思います。それをしっかりと社会に発信できるように、今回のオリンピック・パラリンピックはSDGsを重視しているということを発信力強くできるように協力しながらつくっていくのが大事ななと思いました。先ほどあのようコメントいただいたのは、力強いなと思っており、しっかりと協調してやっていけたらいいなと思っています。
- ・ 黒田座長：ありがとうございました。

- ・ 土井委員：まったく同感です。ありがたいコミットメントだと思います。DGで言った宿題をまだ自分でやっていないのですが、序文に人権をもう少し書き加えた方がいいと思っ
ておまして。11 ページの2 パラグラフ目の人権、4 行あるのですが、少し書き足しが必要かなと思っ
ておまして。案を送るといって送っていないのは私なのですが。
- ・ 黒田座長：他の委員の方、いかがでしょうか。
- ・ 河合委員：調達、物品と同時にオリンピック・パラリンピックのグッズをつくると思
います。様々なところでつくっているものの活用をまだ聞いていないので、人権のところ
と絡んでくるのかなと思うので、スポンサーが活用、イノベーションをうんでくるとい
うところで、うまく書き込むとか、推進できるかというのかなと思っ
ています。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。調達コードでも同様の議論が既に行われているか
と思っ
ますが、調達コードだけでなく、もう少し大会全般にもということかと思っ
ます。
事務局の方からコメントなどございますか。
- ・ 事務局：河合委員のステークホルダーとの関係に関して、第二章の説明で入れさせて
いただ
いている部分がございますので、そこでご説明させていただければと思っ
ます。
- ・ 黒田座長：わかりました。それでは、次の議事にうつりたいと思っ
ます。2 章の主要
テーマについて、事務局より説明をお願いします。
- ・ 事務局：事務局から資料 5、2 章の主要テーマについて説明。
- ・ 黒田座長：ただいまの説明、人権・労働、公正な事業慣行等への配慮と参加協働・情報
発信
の
ところの書きぶりについて、ご質問・ご意見をお願いします。
- ・ 土井委員：一生懸命まとめていただきましてありがとうございます。質問ですが。前回
WG
で関係者ヒアリングとしてお二人の方が発表、その他にも資料をご提出してくださ
った、
人権労働の分野で五輪と連携しての取組のご提案は、この計画の中に反映されて
いる
のでしょうか？されているとしたらどこでしょうか？されていなかったとしたら
今後
検討されるのでしょうか？
- ・ 事務局：第 2 回 WG では、その場で発表いただいた方が 2 名、4 名の方が資料として頂
いて
おました。かなり個別の取組について、実際どのようにされるか、ということ
で
提案
いただ
いていたと理解してあります。一方、計画のところでは、計画になりますの
で、
一つの表現に全部入ってきてしまう、というところがありまして、文言でどこま
で
入れ
られているかと申しますと、たとえば大目標に松中様のご提案のあった多様性の
祝
祭、
という言葉
をそのまま使わせていただ
いています。難民の方、外国人労働者に関
する
ご指摘は、多くの広がり、その中で皆さんが参加する、ということは開かれた大会
とい
う大目標
のところ
で包含
させていただ
きつつ、
個別の
ところ
でまだ書き
切れてい
ない
ところも
ありますが、
今後の
取組の
なかで
検討可
能です。
例えば 16 ページ「全
ての方
々に
インクル
ードさ
れたと
感じら
れる大
会に」と
ありま
すが、
この部
分が
おそ
らく
前
回
皆
さん
に
ご
意
見
い
た
だ
い
た
と
こ
ろ
の
ポ
イ
ン
ト
と
思
っ
て
い
ま
す。
こ
れ
を
今
後
取
組
と
し
て
具
体
化
し
て
い
く、
と
考
え
て
い
ま
す。

- ・ 崎田委員：根本的なところを一つよろしいでしょうか。14、15 ページあたり、細かく分かれた目標が14あり、その中に職員の意識浸透の研修とありますが、脱炭素、資源管理、大気・水・緑・生物多様性も、持続可能性研修として内容を横串刺してしっかりと伝えていただくということが大事なことだと思いますので、それぞれの分野の目標のところに研修の言葉が入るのか、どこかにまとめて入れていくのか、そのあたりのバランスを考えていただくとありがたいなと思います。ここで文言が細かく入っていること自体は素晴らしいのですが、これと同じことが持続可能性の全ての項目に必要なんだと思いますので、構成についてお考え願います。
- ・ 事務局：現状どうなっているかと申しますと、資源管理と脱炭素につきましては、次にご説明しますマネジメントというところで、どのFAは何をやるのかというところに書いてあります。そこで人事であれば研修と書いていますので、ご指摘を踏まえましてどういう形が望ましいのか検討いたします。
- ・ 崎田委員：ありがとうございます。何故申し上げたかと言いますと、細かく持続可能性に対する計画をつくる。作ったものを、どう、社会もちろん、組織委お一人おひとりが実践していただくかということが大事だと思います。それぞれのお仕事の中で、その方が自分のお仕事にいかしていかないと。持続可能性部の方が全てそういうものをチェックして管理していくのは途方もない話ですので、すべての分野の職員の方々が、こういう精神が大事なのだと考えることが大切だと思いますのでよろしく願います。
- ・ 関委員：18 ページのコラムにILOとの覚書についてありますが、既に覚書は交わされましたか？だとしたらどういった内容なのか教えていただければ。
- ・ 事務局：締結は来月4月。ILOと組織委の中で労働の理解を進めていくために協働してシンポジウムや機会を作ったり、ツールを開発して発信したり、グッドプラクティスについて収集して発信したりなどの取組をと。
- ・ 関委員：この3段落目に書いてあることもILOと関係しますし、これは人権分野における非常に大事な大きな柱になると思います。また、17ページの(4)に調達に関する配慮とありますが、ここはまさに調達コードに書かれていることの実践ですね。この点に関して、以前宮城さんがおっしゃっていたように、パリ大会では調達予算の2割を社会事業家に委ねて新しい形の調達をするそうですが、いいことだと思います。この基準を最低基準クリアしなければ、という考えだけではなく、これを機会に今までになかった新しい社会的イノベーションを起こすということがあっていい。そういうことはここには書いてはいないですが、ここには書いてないからやらないということではないと思います。やったらよいのではないのでしょうか。
- ・ 事務局：運営計画については、盛り込んだものしかやらないということではなく、方向性を書いています。6月以降盛り込めるものは盛り込んでいきたいと思っていますし、報告書ということで2019年の春にもお出しします、そこでも終わったことだけでなく今後取り組むこともあれば書いていければと思っています。

- ・ 関委員：是非調達コードを守る、というだけではなく、社会を変えるポジティブな動きの方も、今後検討お願いします。
- ・ パトリシア委員：23 ページ、大学が中心のようですが、日本人ではない若者で日本に住んでいる人達多いです。全員日本の若者を指しているのですか？対象は日本の大学だけですか？Wah の話がありまして、インクルードウィークの活動などができると思いますが、オールユースという考えがいいと思いますが。日本人の大学生ですか。
- ・ 小林委員：今の話に関連して。以前の会議で大会を手伝いたいという職業系高校との連携を視野にいれてはということも出ささせていただきました。まだ具体的ではないということであって書かれていないのかもしれませんが、大学だけではなくて、高校生や若者全体を取り込んだ取組というものをやっていたらいいかなと。
- ・ 事務局：検討させていただきます。取組みの部分は今現在のものを書いています。今後の頭出しとして検討する事項をどれだけ書けるのか、実施するセクションと話をしながら記載を考えたいと思っています。パトリシア委員からいただいた大学連携につきまして 800 校になっていますが、別なく声かけていますので、それに応じている大学には、外国の方も入っています。かなりのパーセンテージで連携をしていると。全体が確か 1,000 校と聞いていますので、その中での 800 校、八割と聞いています。
- ・ 土井委員：今後の取組はどうか、この WG は今日終わりますので、今後どうなるかとお聞きしたい。この計画の骨子を以前 DG でお見掛けし、人権労働分野が薄いなどと思ひまして、言葉は悪いのですが、葉っぱもなく幹もないと申し上げまして、そのような思いの中から WG ができました。幹はできてきたのは本当に皆様のご努力の賜物ではないかと思っています。ただ、環境系などくらべると葉っぱがまだまだ少ないなと。葉っぱは取組ですので書いたからと言って一朝一夕にできるものではないので、突然大きな葉っぱができることはありえませんが、でもまだあと 2 年間ありますので、いいアイデアが出てきていますので、このアイデアをどれだけ実現できるかということが、どれだけ重要な葉っぱがこの人権労働分野でできるのかを示すのではないかと。これが今後に向けた課題だと思っています。その意味では提案としては、幹ができてきていますので、そこに、葉っぱを実現するというのと、今回この WG に河合さん、パトリシアさんがいらっしゃることが大事だと思っていますので、やはりダイバーシティ&インクルージョンでは多様な当事者の方々がメンバーに入っていることによる視点が大事だと思います。ダイバーシティの視点が計画に書かれていますが、当事者でない気が付かない視点をとりこぼさないように。とりこぼすと後から批判されてしまいますので。葉っぱを実現していくということと、多様な方々に入っていただくことによってインクルーティブな大会にするという 2 点。この目標をもって何らかの委員会かグループ、計画を実現するための何らかのグループができればいいのではと提案させていただきます。それによって前回ご提案をくださった皆様のご意見もいくつか実現していければいいかと思っています。

今後の取組という視点から情報提供。参考資料4：提案説明をご覧ください。こういったものを今後の取組の葉っぱの部分の案としてはとてもいい案ではないかと。将来葉っぱを実現させていくアイデアの一つにしていいただければいいなと思います。プランA オリパラ混合リレー競技。具体的には10人1チームで4,000m 駅伝などをやってもいいのではないかと。10人というのは様々な人達。ユース、60歳以上のシニア選手、オリンピック、パラリンピアン、などそれはインクルージョンライダーといものを参照にダイバーシティのあるチームを作ってダイバーシティゲームをやっていく。イメージとしてはオリンピックとパラリンピックの間の期間にエキシビションとして行い、モーストインクルーシブゲームズエバーに見える形にするエキシビションがあつていいのではないかとというご提案がありました。パラリンピックが1964年大会のエキシビションとして始まったのと同じように、このダイバーシティ&インクルーシブエキシビションゲームというものも2020大会から始まって、あわよくばそれが今後のレガシーとして残せればいいのではないかと。プランBは、レアチームというのがあつていいのではないかとということがありました。ケニアの難民選手団がリオからはじっていますが、そういった難民代表チーム、先住民、マイノリティの代表チームなどがあつていいのではないかと。世界中のレアな人たちを称えて励ますというこういったチームが参加するというのがあつていいのではないかなど面白い提案だと思いますのでここでご紹介させていただきます。こういったいろんないいアイデアがあつて、それに協力したいという人たちも多くいます。こういったことを皆さんの力を得ながら、まさに参加協働なんですけれども、協働しながら作り上げてくためには、まだまだ仕組みが必要ですし、皆の力の吸収をどこかでやらなければならないと思います。未来に向けてこうした点をどうするのかということをお伺いしたいです、ということが一点。

もう一点が、文言の件ですが、連合の河合様にご指摘いただければありがたいですが、労働者の権利の部分の書きぶりを少しだけ変えていただいた方がいいかと思ひます。16ページ、「労働への適正な配慮の実践」ですが、「労働者の権利を尊重する」ということを当たり前ですが、入れていただければ。「スタッフの労働者としての権利を尊重し、安心して働ける労働環境、」と全部をカバーする言葉ですのでそれが入っていないより、入れられれば。あと、4)に「調達時における配慮方策の実践」のサプライチェーン。サプライチェーンでも守りますとなっておりますので、ここにも書いていただければ。基本的に大会に関係する本体と調達で言えることとなりますので。4)の2パラの「調達コードでは、」という中に、「人権の尊重、適切な労働環境の確保、」とあるのですが、これを「全ての労働者の権利の尊重」と書き換えるか加えるかしていただければ。

世界的にメガスポーツイベント時の五大人権侵害を挙げるとしたら、その中に外国人労働者の労働搾取は必ずでてきます。日本では規模は小さいかもしれませんが、問題としてありますので、外国人労働者という言葉で「外国人労働者を含むすべての労働者

の権利を尊重し」などを入れていただくというのはすごく大事なことではないかと思っています。

- ・ 河合委員：私も同意見でして、近いところの話ですが、13 ページ 4 パラ目「児童労働や強制労働は今もなお世界各地で問題となっており、」と世界では違法行為が書かれている一方「国内においても過重労働やワーキングプアといった課題が指摘されている」と国内は違法ではないがグレーゾーン、という書きぶりに読めてしまうのですが、当然国内でも技能実習生達の強制労働、未成年の方の不法なアルバイト、児童労働も当然日本でも存在しますので、ここの表現ぶり、この問題は世界の方ですと読めてしまうところを検討いただければと思います。
- ・ 黒田座長：土井委員からのご提案、そして今の労働者に関する記述につきまして河合委員からご意見ありましたが、事務局いかがでしょうか。
- ・ 事務局：「児童労働や強制労働は今もなお世界各地」となっていますが、ここを「国内外で問題となっており」とし、その後「国内においては～といった課題も指摘されている」と+アルファではなく、含んでいるという形で修正させていただければと思います。土井先生ご指摘の外国人労働ですが、ここは調達コード全体での整理の表現を引用しているところもありますので、調達コードの記述との整合を図らせていただきますので事務局で預からせていただけますでしょうか。
- ・ 土井委員：入れる場所はここでなければではありませんが。確かに調達コードの書き方もあると思いますので、どこか、あるいは 15 ページの 1) のエとかが「大会施設・運営時における取組の推進」という漠とした表現になっていますので、「運営にかかわって労働者の」とかでもいいのかもしれないのですが。書く場所にはこだわりませんが、書いてあるかにはこだわりたいと思っています。
- ・ 事務局：労働者の権利の尊重ですが、言わずもがなと思い、書いていみせんでしたが、大事な観点なのでこれは入れるようにしたいと思います。こういう形で書くとなるとなかなか葉っぱまで盛り込めて書けていない現状なのですが、一連の D&I の中での教育ですとか研修などを通じて各 FA の取組の中にしっかりと織り込んでいくような体制はとっていきますし、今回河合委員、パトリスシア委員がここにいらっしゃる意味、外国人、障がいを持つ方の視点、こういったことなども、一旦 WG おわった後でも参加いただいたりを考えていますので、D&I の教育でも、組織委員会の中の障がいを持っている方がインストラクターなったりしていますので、なかなかここで表現しきれてはいませんが、いろいろな形で推進していこうとやっておりますので、これからどれだけキレイな葉っぱが実を結んでいくのか、その形を、WG という形では今日終わるのですが、なんらか、また報告・相談を委員の皆様にしていただければと思っています。
- ・ 黒田座長：時間の関係もございますので、これまでいただきましたご指摘・ご意見を事務局の方で整理して、計画に反映していただくというように思っています。今日この WG は最後となりますので、今後 DG で最後議論いただくとおもうのですが、皆様のご了承を頂

きつつ、私の方で事務局からお聞きするという事でWGとしての取りまとめとさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか（異議なし）。はい。では、3章、4章の運営方針について事務局よりご説明をお願いします。

- ・ 事務局：3章26ページ以降、4章説明：
- ・ 河合純一委員：施設の話がありましたが、東京都の現在建設している施設の名前が私の記憶しているかぎりでは「オリンピックアリーナ」とか「オリンピックアクアティクスセンター」のままであったような記憶があります。パラリンピックという言葉が全くそこに含まれていないまま今進んでいるのではないかと思います。名前はそのまま遺っていきます。先ほどありましたレガシーという部分で、他の委員会等でも何度か話をしていますが、それがどうなっているかというのが一点目と、その後そこを運営管理していくところにも、必ず障がいのある方々のスポーツを、その施設を使って補助していくんだという事を、どう入れ込むかということもすごく重要な視点だと思っていますので、この計画に書くかは別なのですが、そういった視点も盛り込んで伝えていただきたいと思っています。東京都さんがやってくればいい話と思っています。
- ・ 崎田委員：今いろいろな施設など対象範囲の話ですが。キャンプ地でも、いろいろできることはないでしょうか。そういう話をうかがうことが結構多いのですね。そういうところに持続可能性の様々な動きについて情報を発信していく、ということも重要かと思っています。24ページの「その他の取組の推進」などに、間口を広げすぎると大変なのかとも思いつつ、全国のキャンプ地の自治体、受入施設の皆様が関心を持つこと「自分たちもしっかりやらなければ」と思ってもらうことも大事なかと。キャンプ地の方々に伝えることも大事かと思いました。ご検討いただければと。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。このワーキング、人権労働、参加協働で、確かに情報発信、公正な事業慣行についての議論があまりなかったかと思いますが今の点事務局の方でいかがでしょうか？
- ・ 事務局：様々な主体との連携と国民参加型という二つの分けをしていますが、キャンプ地は主体が我々組織委ではないと思われまして19ページにある「様々な主体との連携」ということで今、3ついれていますが4としてその他のような形で修文を今後検討していければと思います。
- ・ パトリシア委員：38ページ下の方で、The City within Nature/Nature within the Cityとありました。26ページを見ますと会場の半分くらいが海の近くです。でも海のフォーカスがあまりない。海の問題がいま様々言われています。ですのでノープラスチックなどあれば。カーボンエミッションが舟やボートの関連でまだ何も考えられていないようですので、そういうことが入っていてもいいのではないかと考えています。Zero Wastingとノープラスチックは違いますので。
- ・ 崎田委員：私、資源管理WGの座長をしておりますが、全体目標はゼロウェスティングで資源を一切無駄にしないという全体感を目標として、その下になんか細かい目標を

立っています。ノープラスチックという言葉は目標には出てこないのですが、細かく検討してはいますね、例えばレジ袋をどうするのか、など委員としては課題視しております。実際に売店などでどのように容器包装を出すのかなど含め検討をしている最中ですので、課題意識として議論はしております。ご意見としてここで出していただくのは大変ありがたいのですが、資源管理のところで世界的な課題ふまえてかなりそういった話はしています。海洋ゴミは、生物多様性の視点でも大事ですので海洋汚染も踏まえて話しておりますし、そういうことが全体の中では課題としては出ております。

- ・ パトリシア：会場の半分は海ですから。
- ・ 崎田委員：都市と自然とが共生できるように大気・水・緑・生物多様性の目標として話し合っております。刺激をいただくのはありがたいです。ただ、何もやっていないわけではありませんのでという情報提供です。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。
- ・ 土井委員：27 ページの「アクセシビリティへの配慮」の部分でトランスジェンダーへの配慮を書き添えていただきたい。多目的トイレなどは前の部分で書かれていますので書いておいた方がいいと思います。外国人労働者の人権、労働権の尊重をしっかりと考えている大会ですよということを計画の中でしっかり示した方がいい。これまで悪名高いことをしてしまったメガスポーツイベントとは違いますよということを示しては。28 ページ、29 ページ、28 ページの上から、「元請け、下請けの別なく」、のところで「外国人、日本人の別なく」と加えられないかなと。配慮を示して欲しいなと思っています。
- ・ 事務局：全体のどこに記載すべきかを検討しまして記載したいなと思います。
- ・ 黒田座長：各会場の取組については、現在実施している取組と今後実施する取組とがあると理解しているのですが、いただきましたご意見については各施設でどのように実現できるのか、事務局に検討いただき再度整理をしていただきたいと思います。先ほどと同様なのですが、本日のご意見はWG 最後という事で事務局にて、意見を発言された方々の了承をいただきつつ私の方にいただくということで、WG としてとりまとめをさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか？（異議なし）。ではそのような形にさせていただきたいと思います。それでは本日最後の議事、今後の予定を事務局から。
- ・ 事務局：その前に、いつ申し上げようか思っていました点を。本文の記述のなかで 13 ページに差別のところ「人種や肌の色、性別、性的指向、性自認、言語、宗教、政治、社会的身分、障がいの有無等による差別等がなく」と列挙をしています。ここで小宮山先生からエイジングの指摘をいただいています、社会的身分の後に年齢を加えるのはいかがでしょうか？
- ・ 土井委員：いいと思います。かなり前向きな印象を世界に向けて与えると思います。
- ・ 事務局：ありがとうございます。それでは追加させていただきます。それでは今後の予定をご説明します：参考資料 3 説明：

- ・ 事務局：明後日委員会が開催されまして、第二版ご議論いただきます。各WGの座長から報告がありますので、このWGについては黒田座長からご報告をしていただきたいと思います。
- ・ 黒田座長：ありがとうございます。人権・労働 参加・協働ワーキンググループは本日が最後ということで局長からひとことお願いできれば
- ・ 局長：挨拶：委員の先生方には年度末のお忙しい中、2月15日第1回を開催いたしまして、最後が本日3月7日、本当に活発なご意見をいただきまして誠にありがとうございます。集中的にご議論いただきまして、この人権・労働、参加・協働分野におきましても、幅広いご意見を頂戴いたしまして、取組について深めることができたと考えております。これまでいただきましたご意見につきましては、現在策定をしております計画に反映すべく、作業を進めていきたいと考えております。また先ほど土井先生からもありましたが、これは計画を作ることが目的ではありませんで、いかに実践していけるかというところがありますので、これから取組の具体化ですとか、実施にあたりましてもしっかりと進めていかねばいけないと考えております。そのためにも委員の先生方にはこれからもご相談、ご意見を頂戴することが出て来るかと思いますが、今後とも是非よろしくお願いをしたいと思っております。本当に短期間に活発にご議論いただきましてありがとうございます。これをいかに計画に反映させるかは私どもの課題だと思っていますのでよろしくお願いします。
- ・ 黒田座長：どうもありがとうございます。本当に皆様短い期間、お忙しい中お時間をいただき、活発なご議論をいただきましたことを、私の方からも改めて御礼申し上げたいと思っております。それでは本日はこれにて閉会とさせていただきます。皆様どうもありがとうございました。